

# 特集 再生 早乙女桜並木

市を代表する桜の名所「早乙女の桜並木（県道佐久山喜連川線早乙女地区）」は近年桜の樹勢の衰えが顕著で、枝の落下等の危険性が増しています。加えて安全な通行の確保のため歩道を新設する必要があり、道路拡幅にあわせ、新たに植樹帯を設け、桜並木の再生計画を進めています。

今回は、その概要をお知らせします。皆様のご意見をお聞かせください。

【問】総合政策課 ☎681-1113

✉sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp



今年4月の状況



平成元年の頃 伸びた枝が道路を覆う様は「桜のトンネル」  
小林清さん(喜連川)撮影

## 次代に残る桜並木を目指して 染井吉野

染井吉野は、10年ほどで立派に成長し見事な花を咲かせる点で他の桜に優れており、明治以降爆発的に全国に広まりました。北海道と沖縄を除き、日本の桜の80%が染井吉野であるとも言われています。

しかし、この桜はカビの一種（タフリナ菌）が原因で起こるてんぐ巣病に罹りやすく、枝を放置しておくと花が咲かなくなり、やがて樹全体に広がり枯れてしまいます。染井吉野は寿命が短いと言われますが、その大きな原因がこの病気です。防除方法は病気の枝を切除して伝染源を無くすることですが、染井吉野は高木になるため、この処置が容易にできず放置されてしまうことが被害の拡大、蔓延の原因です。

飛散し、被害が拡大し続けるので、全国的桜の名所の桜は第二次世界大戦後に植えられた染井吉野が多く、その中の8割以上が衰退や枯れが顕著となっている現状から、最近では染井吉野に代わる桜を植樹する動きが広がっています。

**染井吉野の後継桜 神代曙**

新たに植える樹種は、これまでに樹木医や桜マイスターなどの有識者で構成した「さくら市桜会議」で検討してきました。

市の方針として、樹種の選定は、樹形、花形、開花時期、耐病性を考慮し、染井吉野の後継にふさわしい桜を選ぶことにしました。

その中で、全国で桜の名所づくりや桜の保護活動に取り組む、(公財)日本花の会の和田博幸主幹研究員や同会結城農場の田中秀明農場長（いずれも樹木医）の助言をもとに「神代曙」を第一候補としました。

## 神代曙を候補にした理由

- ・染井吉野系の桜で樹形は傘型、花形は一重咲、開花時期も染井吉野とほぼ同時期
- ・花の色が淡紅色で遠目にも濃淡が美しい
- ・病気に強い
- ・染井吉野ほど大きくならず、管理が比較的容易（※早乙女桜並木の染井吉野の樹高がおよそ8m～10mで、高木に分類される神代曙は同程度の樹高。）
- ・100本以上の神代曙の並木は全国的にもめずらしく、淡紅色の花が満開に咲く並木は壮観で注目度が高くなる



再生後の早乙女桜並木イメージ



東京国立劇場前の神代曙（樹齢約20年）  
国立劇場には他にも違う桜が植えられている中、満開に咲く淡紅色の花はひととき目を引き、多くの人だかりができていました。  
平成31年3月27日撮影

## 歴史

1924年（大正13年）の県道の改修に合わせ、当時の青年団も奉仕活動として染井吉野の若木100本が植えられました。それから95年間、最盛期には空を覆うほど枝を伸ばし、満開に咲く様は、とちぎ景勝百選に認定されるなど、市のシンボルとして親しまれてきました。

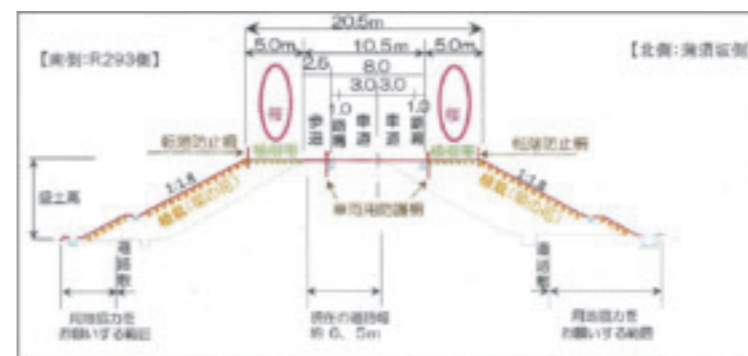
## 再生

寿命が60年と言われる染井吉野ですが、早乙女の桜並木の桜はそれを大幅に超えた老木の上に、てんぐ巣病などの病気に罹り、樹勢はここ数十年間のうちに著しく衰えています。

これまで樹勢回復処置を行ったものの、道路の斜面であるため根の再生など根本的な処置ができず、その後も衰えが進みました。

また、枝が道路上に落下する恐れから、車道に張り出した枝の伐採を繰り返さざるを得ない状況もあり、桜にとって過酷な生育環境であったと言えます。

標準横断面



用地補償費：県  
工事費：市…桜の伐採・植栽、法面への植栽（菜の花等）  
県…上記以外

市は県と協議を重ね、県道の大規模改修が可能となりました。整備については県が歩道に合わせ桜の生育に配慮した植樹帯を設け、市が新たに100本以上の桜を植栽し、将来のシンボルロードとなるような「早乙女桜並木再整備」を進めることになりました。

今後は、地権者や関係者の理解をいただきながら用地交渉を行う予定です。